

藍綬褒章の榮譽

中山卯一郎氏に



猿島郡岩井町の統計調査員中山卯一郎氏は、国勢調査その他統計事業に功勞のあつた全国19人のうちの1人として、去る3月27日政府において藍綬褒章の授与が決定、その伝達式が4月

9日午前11時都道府県会館大ホールではれやかに行なわれた。

本県統計関係では四人目である。

中山氏は現住所の岩井町辺田311番地で、明治25年生れの72才。明治43年県立水海道中学を卒業後一時町役場書記などを勤めたが、大正3年から家業の農業に専念篤農家として近隣の信望をあつめ各種の公職等を歴任し、戦前戦後を通じて農村の振興と民生安定などに貢献された。その功績はまことに大きなものがある。

家庭は現在長男夫婦と孫たちに囲まれて平穩な余生を楽しんでいる。夫人は数年前他界され、二男二女の四人はそれぞれ独立あるいは嫁ぎ家業に励んでいる。

氏は大正3年から今日まで農業のかたわら、岩井町内

を特区に統計調査を地道に続けてき、その努力と功績が認められたものであるが、生来温厚着実、ち密な性格できちようめん、責任感の旺盛な持主。統計事業の功績については、大正9年の第1回国勢調査から毎回国勢調査は勿論、その間農商務統計調査員、資源調査員、常住人口、住宅統計、農業センサスなど各種の統計調査員に任命され、何れの統計調査においても氏に係る報告は訂正加筆の要のない立派なものであつた。

日頃氏は「統計こそ国の基」という信念に徹し、誠心誠意その業務にぼつ頭、晴雨にかかわらず農村地帯を地味にかけ巡り、また調査員訓練会や研修会等には率先出席旺盛な意慾をみせている。その努力の結果、町からも数次の表彰をうけている。

今回の国家表彰は永年の統計調査についてその顕著な功績にむくいるに誠にふさわしく、また本県9千名調査員の模範とするところである。今後氏には本県統計界の発展のためのご教示をお願い申しあげるとともに、ご自愛頂き健やかに幸多き余生をおくられることを祈るものである。

統計課人事異動

新		旧
秘書公聴課	岩下和子 (昭和40年4月10日付)	統計課庶務係
統計課庶務係	上久保静枝 (昭和40年4月1日付)	〃 広報資料係
退職	北条登利子 (昭和40年4月30日付)	〃 広報資料係

昭和40年度統計調査と予算

各省庁関係

昭和40年度の統計関係予算も別表の如くきまつたが、本年度統計界にとつての朗報は、何んといつても統計調査員の手当が、1日単価現行350円から500円に引上げられたことであろう。昨年統計審議会が700円とすることが妥当であるとの答申をしたが、各省庁は一挙に現行の倍額を要求することは実現の可能性もすいので、2年計画で実現を期し、5割増の550円を統一要求していたものである。現在500円は高いものではなく、その上大蔵省は単価引上げの条件として能率向上を要求しているので、手放して喜んではいられない。

各省庁のうち目立つたものを拾つてみると

総理府統計局

昭和40年国勢調査で予算総額22億8千余万円、5年毎に行なう人口センサスである。本年がその該当年、10月1日午前零時を期して行なわれる。

今回の結果については、早期公表をはかるため光学式読取装置を導入している。

昭和31年以降3年毎に実施の就業構造基本調査がある。全国の約百分の1に当る26万世帯に常住する15才以上の者について7月1日現在で就業状態の詳細を明らかにするもの。

経済企画庁

景気動向予測資料の充実をはかるため、年2回行なわれていた消費者動向予測調査が年4回に拡充された。

毎月貸金支払調査で貸金動向の早期は握がはかれ社内金融の実態は握のため従業員金融調査が新たに認められた。

文部省

3年毎の学校教員調査が行なわれるほか、高校教育過程実施状況調査が新規に認められた。

厚生省

新規として原爆被爆者実態調査、離職者及び老令退職者実態調査等がある。

農林省

中間農業センサスの集計経費として、2億5211万円、食糧消費及び家族生活調査の準備調査費として、171万円が認められたほか、都市水産物流通調査、近郷野菜の流通調査、プロイラーの流通調査、農民意識調査、農林業動態調査などがある。

通産省

新規事業としては、割賦販売実態調査、プラスチック成形工業動態統計がある。

労働省

新規事業としては、地域別労働者生活環境調査、労働費用調査がある、その他ほぼ例年どおり。

運輸省

新しく大都市交通センサス、そのほか例年とおり。

建設省

住宅建設実態調査が唯一の新規事業である。

統計基準局

地方統計職員実務研修はほぼ本年度と同規模で実施される。都道府県専任職員費はベースアツプ分が認められただけだが国勢調査実施に伴なう事務量増大に備えて、臨時職員配置費として2千余万円が認められた。

県関係

県単調査として毎年行なわれている農業基本調査、県民所得推計、常住人口調査が今年も行なわれる。

その他鉱工業生産、農林水産業生産、消費者物価、雇用賃金等各種の指数調査がある。また国勢調査の付帯調査として、昼間人口調査、工業統計調査の付帯調査として工業実態調査がある。変つたところで本県の県民性をとらえるべく調査費は少ないが県民性調査が予定されている。

都道府県統計主管課を通ずる調査一覧

(単位千円)

主管省庁	調査名	39年度 予算額	40年度予算額		調査 系統	調査 方法	調査期日
			総額	うち委託費			
総理府統計局	国勢調査	—	2,280,149	1,805,546	B	C	10月1日
	就業構造基本調査	—	80,893	68,661	B	S	7月1日
	労働力調査	76,359	97,496	88,417	A	S	毎月
	小売物価統計調査	46,382	58,225	53,240	A	S	〃
	個人企業経済調査	9,558	11,763	10,078	A	S	毎4半期
	家計調査	101,860	116,931	84,029	A	S	毎月
経済企画庁	法人企業投資実績調査	4,104	4,104	2,938	A	C	5月
	法人企業投資予測調査	3,085	3,978	1,909	A	S	年4回
	消費者動向予測調査	10,986	19,492	16,753	B	S	〃
	民間非営利団体等調査	2,369	2,565	1,675	A	S	未定
文部省	学校基本調査	16,368	19,082	16,604	B	C	5月
	学校保健統計調査	5,623	6,758	5,339	B	S	4月
	学校教員調査	—	9,823	4,340	B	C	6月
農林省	中間農業センサス	475,354	252,106	231,662	B	C	
	食糧消費および家族生活調査	3,053	1,707	813	B	S	未定
通商産業省	商業動態統計調査	34,884	41,505	34,349	A	S	毎月
	割賦販売実態調査	—	6,119	4,935	A	C	未定
	工業統計調査	117,801	144,418	115,097	B	C	12月末日
	工業用地用水調査	4,440	7,877	3,432	B	C	〃
	鉱工業動態統計調査	90,519	112,373	49,179	A	S	毎月
	機械器具流通統計調査	9,656	12,093	8,579	A	S	〃
	プラスチック成形工業動態統計	—	3,964	3,197	A	S	〃
労働省	毎月勤労統計 甲調査	17,761	17,830	14,388	A	S	〃
	〃 乙調査	37,473	55,129	52,885	A	S	〃
	〃 特別調査	5,637	8,089	6,115	A	S	7月

(注) A：国都道府県 B：国都道府県市町村 C：悉皆調査 S：標本調査 39年度予算は当初予算額である。

☆編集室から☆

昭和40年度の第1号をむかえましたが、今年もご利用ご活用をお願いいたします。

表紙も新しく親しみやすいようデザインしました。模様は湖上の白帆を圖案化したものです。

統計茨城という題字の揮毫を知事におねがいましたところ、知事も統計の発展のため喜んでお引きうけを頂きました。誌上をかりまして厚く御礼申しあげます。

人間雑話は長い間読者の皆様に愛読されてまいりましたが、3年近くも続いたのでこの辺で一応中止したいと

思います。筆者の茨大教授の塚本先生には、御多用中にもかかわらず毎月執筆、こんととしたこの社会の中で私達の人生観、社会観など諸々の倫理や処世について爽風を送っていただきました。深く感謝いたします。

人間雑話にかわつて登場するのが郷土の歴史や古事などの研究家として有名な前田香径先生に「人物郷土史」と題して連載をお願い申しました。私達の郷土の埋もれた歴史や人に知られざる歴史や古事、風習などを発掘していただき、この私達のはぐくまれた郷土に一層思いを新たに今後の郷土の発展の参考として頂ければ幸いです。ご愛読を願います。(Y.M)

ミ さくらバツバツと統計の年となりミ

弥生の月、国花さくらの開花によつて万物躍動の時至る。諸帳簿も新しく新会計年度、そして希望の入学式等春のニュースは明るい。生物がことごとく活気づき、野も山も黄緑に衣替して華やかな春のベールに包まれる。統計界も40年度は5年ごとに回つてくる当り年、農業センサスの集計に始まり、学校教員調査、就業構造基本調査、そして10月1日一般に親しまれている伝統の国勢調査等新規の統計調査が続き、本年はどうやら数字に追いつけられて一年が終つてしまうようである。

ミ 春異常さくらも首をひつこめるミ

今年は例年にない天候不順、3月の水戸の降雨量は27.4ミリで例年3月の雨量としては最低、おまけに低温が続き4月6日は-3.5度と水戸気象台始まつて以来の最低と新記録続出オリンピックならば金メダルというところ、普通の年の北海道の気温に匹敵するという。一般家庭にも野菜の品不足がひびき家計簿に穴があきそうである。

ミ ランドセル背負つて一年生らしくミ

ランドセルを背負えば、甘つたれのわがままなやんちや坊主でも急に一年生らしく頭の前から足の前までみんな新しく朝早くから仕度をして学校へ行きたがる。

今年の小学校一年生は3万7千と推定される。終戦つ子と呼ばれた児童の激増によつて年々増加してきた児童数も昭和29年の入学者6万248人を頂点として漸次減少を続けてきたが、昭和39年の3万6687人を最少として本年からは若干増加の傾向をみせはじめたようである。

ミ 手をつなぐ一年生にさくら散りミ

可愛らしい一年生が、お手々をつないで輪になつてさくらの下に、結んで開いてなどと唄つて踊つて遊んで、今日の学科が終る。先生もお守り役としていろいろと苦労の種も多いのがこの時期、今年は例年になく寒気のためまださくらのつぼみは固く、異例のさくらのない入学

式に終つてしまつたようである。

ミ 春の山大きく背伸びして雪崩るミ

山野が新緑に包まれて、春もたけなわになつてくると長い間白いフトンをかぶつて安眠をしていた山々が冬の眠りから目覚めて大きなあくびをして背伸びをするたびに雪崩となつて人々の尊い命を奪うことが多いようである。山の雪崩は春の先ぶれ、雪山の美しい姿からやがて紺色の山本来の雄姿を表わし世人の目を楽しませてくれることであろう。

ミ ^{かげろふ}陽炎を牛がたべてる春の土堤ミ

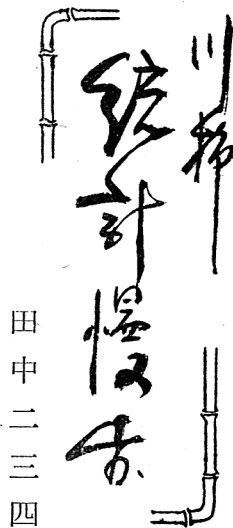
長堤十里、陽炎がゆれて放牧の牛が悠々と草を喰べる姿はまさに一幅の絵、このどかな春の風景の下に人は生きるために黙々と働き、牛もその一つの資本として生きるために草を喰べ続け、やがて牛なべに入っている運命に置かれていることは牛にはトンとご存知のないことであろう。

ミ センサスの集計というややつこさミ

農業センサスの調査票が集められ、いよいよ春4月ともなれば集計の時期、他人はお花見の気分には浮き浮きとするこの好季に統計マンは集計表とにらめつこをしながらソロバンにかじりつき、計算機を回さなければならぬ。センサスの集計こそ、統計の仕事の中で、手集計として一番ややつこしいもの、Aの表とCの表、AとD、あるいはBとDというように表と表との関連するカ所が多く、うっかり集計手順を誤るととんでもないことになるらしいから御用心が肝要。

ミ 空襲のニュース平和な空で聞きミ

空襲、敵機、基地爆撃等、大戦時を思い出させるような暗いニュースがブラウン管を通じベトナムから流れてくる。ベトナムの空はきつとあの頃の日本のように。いつまでも続けたい平和、戦争はごめんだ、早くベトナムの空に平和が訪れることを祈る次第。



田
中
二
三
四

(9)

統計の交差点

10月1日に国勢調査

政府は4月9日の閣議で、10月1日に第10回国勢調査を実施することに正式に決定した。

国勢調査は大正9年の第1回以来ほぼ5年ごとに行なわれており、調査結果は市町村別の人口概数を年内に、確定数を明年5月末までに公表する予定であるが、従来4カ月かかったものを光学式読とり装置を採用して、調査後約20カ月以内に集計を完了することになっている。

昭和40年度茨城県統計大会開催日時きまる

毎年統計関係者が一堂に会し盛大に行なわれているが今年度の大会の日時がこの程決定したのでお知らせいたします。行事内容等については未定

大会開催期日 昭和40年7月6日(火)

昭和39年度茨城県統計協会総会

上記の総会が去る4月5日水戸市水府荘において開かれました。午前10時半開会のことばに続いて、会長の挨拶があり議案の審議に入る。午後3時下記議案を原案どおり承認可決された。

記

- 1 昭和38年度歳入歳出決算の承認について
- 1 昭和40年度事業計画について
- 1 昭和40年度歳入歳出予算について

昭和40年度実施予定の講習会

県並びに市町村の統計関係職員の資質の向上、統計機械の拡充強化を目的として、今年も各種講習会が開かれますが、実施予定の主なものは次のとおりであります。詳細については確定次第お知らせいたします。

記

統計実務講習会 7月下旬(2日間) 於筑波町
地方統計職員業務研修(12月上旬) 於水戸市
第1回(4日間) 第2回(4日間)

稲敷郡統計事務研究会発足

稲敷、新治、北相馬の3郡で結成していた土浦地方統計事務連絡協議会を発展的に解消し、それぞれ各郡毎に郡研究会を結成すべく準備中でありましたが、4月1日稲敷郡統計事務研究会の発足をみました。同会は郡内統計関係職員の相互の理解と研修等を目的に、会長、会則などをきめ事務所を会長である阿見町役場内におく。

後藤統計教育研究部長勇退

県教育研究会統計教育研究部長の勝田市立第三中学校長後藤末先生は、去る3月後進に道をひらき勇退された。教職在年40余年。氏は統計教育の重要性を早くより認識、昨年同部長であり勇退された元水戸市浜田小学校長の油川氏と共に県教育研究会の中に統計教育研究部の地位を確保された功労者である。県統計教育研究を、発足以来今日のように組織的にも大きく発展したのも氏が推進力として、献身的にご努力された賜のと思われる。現在の統計教育界には誠に惜しい存在である。今後のご健康とご発展を祈るものである。

下館市統計調査員大会

昭和39年度上記大会が、同市民会館において去る3月

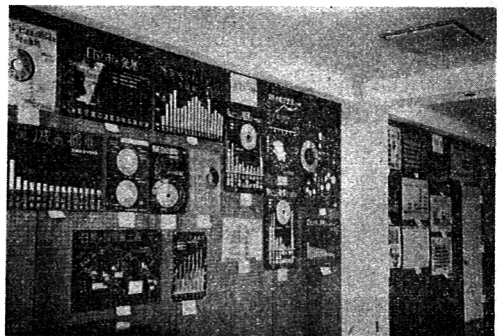
27日全調査員が集まり開かれました。午前10時大会の開会のことばに続いて行事は順調に進み功労者の表彰等を行ない午前中で終了した。

下妻市統計大会

昭和39年度の下妻市の大会が、3月29日中央公民館で全市の調査員が参集、盛大に行なわれました。大会行事は10時開会、市長あいさつ、表彰などあり有意義におおった。表彰者は横堀孝一氏他7名

日立市統計調査員大会

第8回日立市統計調査員大会が、去る昭和40年3月8日市内記念図書館で盛大に行なわれました。当日は市内の全員が参集され、定刻午前10時開催、予定どお行事は万才三唱で午後0時半終了した。この大会で表彰をうけられた方は県統計協会総裁賞の益子開介氏他10名である。この大会と同時に開かれた同市内小中学校の統計図表展も開かれました。



昭和39年度水海道市

優良統計調査員表彰式

昭和40年3月29日午前10時、市内公民館で開かれました。開会の辞に続いて表彰状の授与、市長あいさつ、来賓の祝辞、受賞者謝辞等あり午前中に終了した。受賞者は県統計協会総裁賞、市長賞をうけられた森田清五郎氏他9名

笠間市第4回統計大会並びに総会

市統計協会総会をかねて笠間市統計大会が去る3月22日市内青年研修所で行なわれました。午前10時開会の辞市長の挨拶、表彰など大会行事を終った後市協会総会を開き38年度決算、40年度予算等について審議、予定どおり議事を終了午後解散した。本日の大会で表彰をうけられた方は、中田正雄氏他8名

昭和40年度都市統計事務協議会総会

去る4月15日水戸市で開かれました。主な議事は次のとおり

- 1 昭和39年度歳入歳出決算承認の件
- 1 昭和40年事業計画について
- 1 昭和40年予算について

近 着 統 計 図 書 案 内

図 書 名	調査年 刊行年	発 行 者	図 書 名	調査年 刊行年	発 行 者
総 記			事業所統計調査結果報告	38 年	山 形 県
日本統計制度再建史		行政管理庁統計基	工業製品等流通調査報告書	38 年	佐 賀 県
事業概況	39 年	準局	学校保健統計調査報告	39 年	東 京 都
日本統計月報(解説編)		〃	学校基本調査報告	39 年	〃
国勢調査報告(10%抽出)	35 年	総 理 府 統 計 局	都民所得推計結果報告	38 年	〃
経済・産業			工業統計調査結果	38 年	〃
経 済 要 覧	40 年 版	経済企画庁調査局	埼玉県輸出産業	39 年	埼 玉 県
法人企業統計年報	38 年	大蔵省証券局企業	県民所得推計報告書	38 年	熊 本 県
ポケット農林水産統計	40 年 版	財務課	岩手県統計年鑑	38 年	岩 手 県
国富調査報告	35 年	農林省統計調査部	福井県統計年鑑	37 年	福 井 県
百貨店販売統計年報	39 年	経済企画庁	県民所得推計報告書	38 年	栃 木 県
株式分布状況調査	38 年 度	通産大臣官房調査	県民所得推計結果報告書	38 年	佐 賀 県
小売物価統計調査年報	〃	統計部	愛媛県統計年鑑	38 年	愛 媛 県
鉱工業生産活動	39 年	大蔵省証券局企業	和歌山県統計年鑑	38 年	和 歌 山 県
		財務課	教育統計調査報告	39 年 版	山 形 県
		総 理 府 統 計 局	工業統計調査結果の概況	38 年	北 海 道
		通 産 省	群馬県統計年鑑	38 年	群 馬 県
教育・社会			県民所得推計結果報告書	38 年	青 森 県
文 部 統 計 速 報	39 年 度	文 部 省	道民所得推計結果報告	〃	愛 知 県
事業所統計調査報告(岐阜)	38 年	総 理 府 統 計 局	福島県統計年鑑	〃	北 海 道
〃 (宮崎)	〃	〃	県民所得報告書	〃	福 島 県
〃 (香川)	〃	〃	長野県の工業	〃	福 岡 県
〃 (茨城)	〃	〃	消費者物価調査年報	39 年	長 野 県
〃 速報	〃	〃			神 奈 川 県
住宅統計調査結果速報	〃	〃	茨 城 県		
事業所統計調査報告(長野)	〃	〃	主要農産物の収量調査結果	38 年	県 統 計 課
〃 (鹿児島)	〃	〃	(2)		
〃 (新潟)	〃	〃	茨城県農協15年史		県 農 政 課
〃 (佐賀)	〃	〃	事業所統計調査結果報告書	38 年	県 統 計 課
〃 (大分)	〃	〃	毎月勤労統計調査年報	39 年	〃
〃 (山梨)	〃	〃	研究学園都市関係の雇用動	40年3月	県 職 業 安 定 課
〃 (鳥取)	〃	〃	向調査概要		
〃 (岡山)	〃	〃	市 民 所 得	38 年	石 岡 市
各都道府県			村 勢 要 覧	40 年 度	東 村
島根県生産指数		島 根 県	小売商業の現状と問題点		県 商 政 課
長野県鉱工業生産指数	7~9月	長 野 県	農業労働災害実態調査に關		県 農 協 青 年 同 盟
工業統計調査結果表	38 年	兵 庫 県	するレポート		
県民所得の概要	38 年	山 梨 県	教育統計報告書	39 年	県 教 育 庁
県民所得推計報告書	38 年	岩 手 県	農業所得統計	38 年	茨 城 統 計 調 査 事 務 所
神戸統計書	38 年	神 戸 市	茨城農林水産統計年報	38 年	〃
県民所得推計結果概要	38 年	千 葉 県	(水産編)		〃
教育統計調査結果報告	39 年 度	山 口 県	〃 (農林水産編)	〃	〃

前田香徑

水戸藩二百余年間には偉い人物があまた世に出ている。ところが藩末になつて朋党の争いが続き、同藩の家臣たちが、天狗党と諸生党の両派に分れて血を血で洗うような惨劇を展開したことは、水戸にとつてまことに不幸なスキャンダルだつた。明治になつて史家はおおよそ天狗党を正義の士の集りとし、諸生党を奸悪の徒のグループときめてしまつたことには勅諭その他いろいろの理由がある。そのために先賢に対する人物評価は妥当を欠き、天狗党といえども二もなくすべて尽忠の志士と見、諸生党といえればピンからキリまで不義の賊徒ときめつける傾向があつた。その実例をここに詳しく述べる余裕はないが、すでに贈位の恩典に浴した志士といわれる藩士の中にも、不逞非道の行為のあつた者も混つているし、社会的に、あるいは文化的に功勞のあつた者も諸生党なるが故にかえりみられず沈淪している例が多いのである。

ここに紹介する大久保今輔なども、郷土の生んだ偉大な人物として、大いに顕彰されていはいはずなのに、彼は諸生党の巨頭たちと交渉があつたために、水戸藩は彼を稀有のベテン師ときめつけてしまつて、残されている諸資料は彼に対して殆んどが悪評ばかりで、それを弁護しようとする者は一人もいない。そればかりか、彼の業績は故意に抹殺されてしまつたらしく、彰考館の学者たちの書いたものも、彼のことに触れると、こぞつて悪名を冠せて排斥している。

ところが他藩に残る資料を見ると、多くはその人物を高く評価し、今輔を優れた経世家と賞揚している者さえある。肥前平戸の城主松浦静山は彼を引見しそのことを「甲子夜話」に載せているが、静山の筆致は今輔に好意的で、詐欺師ともベテン師ともいつていない。小説や講談に登場する今輔の人物には虚偽の影が濃厚にまつわりついていても水戸学者が彼を指弾するほど悪党扱いはしていない。

ともあれ今輔という人物の正体を知らない読者のために、まず彼の略伝をここに記しておきたい。

今輔は常陸国久慈郡亀作村(現常陸太田市)に生れた。真弓山麓の台地にいまも百戸あまりの農家が散在する亀作は、耕地の少ない一寒村で特に彼の生家は田畑が1町歩にも足りない貧農だつた。父は文蔵、母はひなといつたが、その間に彼は宝暦7年(1757)正月3日に誕生した。父文蔵は彼が5才のときに病死し、母のひなは文蔵の弟と逆縁したことになつているが、このことについては後に述べる。実は叔父であり義父であるこの人に14才まで養われ、毎日百姓仕事に追い使われていた今輔は明

治7年(1770)夏、青錢13文を持つて家出し、水戸城下にたどり着くと鍬の柄を作る職人の家に弟子入した。まもなく彼はその親方の世話で藩士某の屋敷に仲間として住みこんだが半歳で暇をとり、それから江戸へ発足した。道中は橋の下や辻堂の縁に夜をあかし、知らぬ農家の軒先に立つて飯を乞うなど物乞の姿そのままであつたと伝えられている。

江戸に出てからの今輔は、どんなコースをたどつて出世街道をあるいたか、その後2、30年間の彼の生活は殆んど知られていない。最初は酒屋の丁稚奉公に住みこみ梅拾いをしたとか、あるいは大名屋敷に雇われて草履取りをしたとか、断片的な資料はあるが、詳しいことは分つていない。23、4才のころ堺町の芝居に出入しているうちに、当時の名優瀬川菊之丞の衣裳番をつとめることになつたのが、彼の開運第一歩だといわれている。その後彼は京橋に上総屋とよぶ店舗を開き堺町歌舞伎の金主になつたのは安永5、6年、30才前後のころと思われるが、彼の大躍進は幕府の老中水野出羽守忠成に知られ、その庇護のもとに営業を拡張してから俄かに顔を売り、終に江戸一流の銀主にまで成上り、文化14年(1817)61才のとき水戸藩の江戸家老榊原淡路守の推挙で最初5人扶持の士籍に列し、以来着々と加増され文政10年(1827)には留守居物頭の要職に抜擢され、食禄五百石を給せられる身分にまで出世したのである。彼のような人物は郷土にも異例といつてよかろう。

文化、文政といえれば賄賂政治の田沼意次はすでに没落したが、風俗は極端にみだれて精神的のゆるみがまだ庶民の生活の上に見られた時代である。幕府も大町人を中心とする商業高利貸資本に首の根つ子を抑えられていた時代の余弊はまだまだ一掃されていない。運上金、冥加金を出せば土分になれるし、特権営業の許可も得られた。

14才のとき乞食同様の姿で江戸に出た今輔はもともと貧農の子であり、彼の欲望といえれば物慾以外にはなかつたろう。彼は単身でしかも縁故もない花の都の江戸に出たが、一個の田舎者が普通の世渡りをしていては、自分の夢を実現することなどはとてもできるはずはなかつた。常に物欲によつて動いた彼はまた物欲によつて他人を動かした。すなわち彼は権門に結びついてその特権を巧みに利用した。それには無論賄賂もたびたび贈つたと思われる。彼がベテン師といわれる所以であるが、その時代に彼は進物をそれほど罪惡視していたであらうか。西鶴は「銀さえあれば何事もなる事ぞかし」といつて、金銭をけがれとする武士道徳を笑つているが、それはそれとして今輔には他にどんな悪徳行為があつたろうか。

(つづく)